

令和5年7月27日

西部農林水産振興センター益田農業部

標 題

環境モニタリングデータ等を活用したミニトマト勉強会を開催

(ダイジェスト)

益田管内ではミニトマトを中心に環境モニタリングシステム（以下、システム）が稼働しています。7月24日、ミニトマト栽培を行っている管内のシステム導入農家と益田ミニトマト部会員を対象に環境モニタリングデータ等を活用した勉強会を開催しました。今後、生育状況や環境データを基に意見交換しながら、収量、品質の向上に繋げていきます。

令和5年産ミニトマト栽培でシステム（みどりクラウド）を導入している農家は、益田市9戸、津和野町1戸、吉賀町2戸の計12戸です。令和3年度からのスマート普及活動を契機に、システム及び環境制御技術の研修会、環境データや生育調査の情報共有等により、収量・品質の向上に繋がる活用方法を模索してきました。

今年度は、生産者が自ら環境データと生育状況の調査を基に栽培管理の改善に繋がられるよう、栽培期間中に定期的な勉強会（6回程度）を開催する計画です。

取り組み内容は、システムでの環境モニタリングデータと生産者自身で実施してもらう生育調査のデータを基に意見交換しながら、良いと思われる管理方法等を探り自らの栽培に取り入れ、その結果や変化を確認し、さらに良い管理方法を模索し活かすことです。

勉強会に際しては、県（技術普及部、益田農業部）とJAが、生育状況や環境データ、出荷データを取りまとめ、分析、助言を行います。これを基に「なぜそうなっているのか」、「なぜそう判断したのか」等、生産者と県、JA、(株)セラクで情報・意見交換する中からヒントを探し、以降の栽培管理に活かしていきます。

7月24日に開催した第1回目の勉強会では、農業技術センター技術普及部から生産者への取り組みの意識啓発も含め、他地域での生育・環境データと管理状況や生産者が実施する生育調査方法等の説明が行われました。また、JAしまねから営農技監を助言者に迎え生育状況と管理方法について情報交換を行いました。

今後、この勉強会での取り組みを通じて、栽培管理について自ら考え判断できる生産者を育成するとともに、指導者側の生育診断とハウス管理指導等のスキルアップや指導方法の確立を図り、ミニトマトの収量、品質の向上と経営安定に繋がるよう取り組んでいきます。



【第1回勉強会の様子】